



所長 佐久間 一郎さん

北海道大学医学部卒業。社会医療法人社団カレスサポロ理事。日本臨床栄養学会評議員・臨床栄養指導医。日本動脈硬化学会評議員・指導医。日本臨床薬理学会評議員・専門医・指導医。日本女性医学会認定女性ヘルスケア専門医ほか。医学博士

女性は閉経後が要注意

糖尿病は、自覚症状がないまま進行し、放置すると重大な合併症を引き起こしかねない生活習慣病の一つで、中高年を中心に増えています。糖尿病には1型と2型があり、日本人のほとんどは食事や運動などの生活習慣が関係している2型糖尿病です。食事については、日本食から欧米化し、フライなどの油物を中心にカロリーの高い食べ物が増えてきたことによる肥満の増加が原因の1つと言えます。運動については、特に働き盛りの中高年層はなかなか運動ができない方が多く、さらに

社会医療法人社団カレスサポロ 北光記念クリニック

広がる薬物療法の選択肢 自分に合った治療法を見つけよう

現代は車社会で歩くことが少なくなつたということも言えます。専業主婦の方では、家電機器が進歩し、これまで大変だった家事の省力化も運動不足につながっているという意見もあります。特に女性は、閉経後に太りやすくなります。理由は、卵巣で作られているエストロゲンという女性ホルモンが太るのを防ぐ働きをしていて、閉経を迎えることで分泌されなくなるからです。

使いやすい週1回の経口剤も

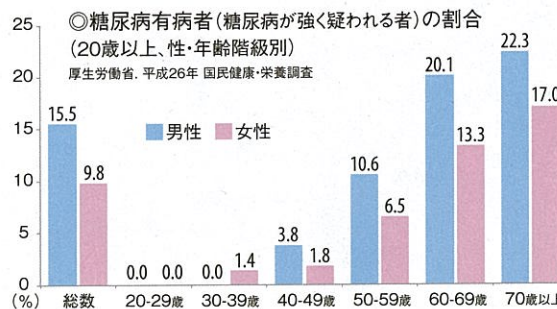
糖尿病の治療は、食事療法と運動療法が基本です。しかしながら、生活習慣を改善することがなかなか難しいという方が多いのが実情で、治療には薬物療法を併用します。糖尿病の治療薬は、以前はSU剤というインスリン分泌促進剤が主でしたが、現在では

すい臓を疲れさせ、低血糖を起しやすいうことからファーストチョイスではなくなりました。近年は新しい薬の開発も進み、例えば、おしっこから糖を排泄させて血糖値を下げるSGLT2阻害薬は、体重の減少にもつながり、肥満の方が多いアメリカではファーストチョイスになっています。また、インスリンの効果を高めるDPP-4阻害薬は、低血糖を起しにくく非常に使いやすい薬です。このように、現在の糖尿病の治療は、タイプに応じてさまざまな新しい薬が選択できるようになっています。

また、これによって飲み忘れだけでなく、後者の薬剤ではドライバーさんなど夜間に勤務されているような生活リズムが不規則な糖尿病患者さんでも、週1回休日に服用すればいいので飲み忘れもなく、非常に使いやすくなりました。

食事と運動、治療の習慣化を

糖尿病の治療は、生活習慣の改善と薬の服用の習慣化が重要です。患者さん一人一人のライフスタイルに合わせることでできる薬の選択肢が増えたことは、これまで治療を継続できなかったという方にとっても朗報と言えます。医療側においても、多職種によるチーム医療で、患者さんが継続して治療に臨めるよう、そのモチベーションの向上にも努めています。決して諦めないでください。一緒にその糖尿病を改善していきましょう。



社会医療法人社団 カレスサポロ
北光記念クリニック

札幌市東区北27条東8丁目1番15号
☎011-722-1122

診療時間/平日 9:00~12:00、13:30~17:00
土曜 9:00~12:00
禁煙外来/平日 9:00~12:00、13:30~16:30
土曜 9:00~11:30

男性・女性更年期相談、認知症相談
休診日:日曜・祝日